

# プロジェクトで発生するリスクの MBTI を用いた事前予測

プロジェクトマネジメントコース 矢吹研究室 1442085 中村 真悟

## 1. 序論

MBTI( Myers-Briggs Type Indicator )という自己理解メソッドがある。MBTI とはカール・グスタフ・ユングの心理学的類型論の指標( 内向: I-外向: E, 感覚: S-直感: N, 思考: T-感情: F )に判断的態度: J-知覚的態度: P の指標を加えて, 4 指標 16 タイプとして性格を分類する。主に相談場面や教育現場, 企業の組織編制, 人事政策などに利用されている [1]。

## 2. 目的

本研究の目的は, メンバの MBTI のタイプの相互作用がプロジェクトのリスクにどう影響を及ぼしているのかを調べ, メンバ間で発生しやすいリスクを予測することである。

## 3. 手法

以下の手法で研究する。

1. グループワークで課題に取り組んでもらう。
2. グループワーク後に, 性格検査と発生したリスクについてのアンケートを行う。
3. 集めた回答結果をトレーニング用とテスト用にデータを分ける。
4. トレーニング用データからメンバの性格とリスクのルールを見つける。
5. 抽出したルールとテストデータを参照し, 調和平均を求める。
6. 調和平均の値が最も高くなるルールの確信度を求める。

## 4. 結果

調和平均の計算結果は表 1 の通りである。

39 グループの性格検査とアンケートの結果をトレーニングデータ 30 件とテストデータ 9 件の 2 つに分けた。トレーニングデータをアソシエーション分析し, 95 件のルールを抽出した。

抽出したルールの正当性を確認するため, ルールとテストデータを参照し調和平均を求めた。調和

平均は, 確信度 0.8 を越えたルールだけにすると値が最も良くなった。

表 1 確信度 0.8 を越えたルールの調和平均

精度	0.25
再現率	0.863636364
調和平均	0.387755102

## 5. 考察

今回の結果から発生したリスクとメンバの MBTI のタイプには規則性があると考えられる。また, 確信度 0.8 を越えたルールは 0.864 の確率で発生しており, リスクの予測にも利用することができると考えられる。

しかし, データが少なかったため, 抽出されたルールも少ない。

データを取る対象を増やし, より多くのデータを集めれば今回の結果が変わる可能性がある。

## 6. 結論

本研究では, グループワークからメンバの MBTI , 発生したリスクをアンケートを用いて集め, 相関関係を調べた。その結果, MBTI のタイプが相互作用し発生するリスクに規則性があることがわかった。

今後もデータを集めていけば, より多くのルールが見つかり, リスクが最も少ないグループの提案につながることを期待される。

## 参考文献

- [1] 中澤清, 田淵純一郎. 24 MBTI に関する研究 (1) : MBTI の概略について. 日本性格心理学大会発表論文集, No. 6, p. 52, Dec 1997.
- [2] Otto Kroeger and Janet M. Thuesen. 性格学入門 運命のカギをにぎる 16 のタイプ別性格判断. 飛鳥新社, Aug 1994.
- [3] 亀倉正彦. 失敗マングラを活用したアクティブラーニング授業の失敗事例分析とその知識化- 学生の「やる気」を引き出す観点から-. *NUCB journal of economics and information science*, Vol. 59, No. 2, pp. 123-143, Mar 2015.